

人材養成計画構想・概要

対象業務及び対象分野 「(1) 大学院修士課程相当 人社融合 」
人材養成ユニット名 「遺伝カウンセリングコース」
代表者名 「森田 寛」
提案機関名 「お茶の水女子大学大学院」

計画の目標・概要

1. 目標

養成目標

遺伝子診断や遺伝子治療等の遺伝子診療が行われるようになり、遺伝カウンセリングの役割は年々大きくなりつつある。本来 遺伝カウンセリングは、臨床遺伝専門医と遺伝カウンセラーが連携をとりながら行なうべきものであるが、わが国にはまだ遺伝カウンセラーと呼ぶ職種が存在しないため、その養成は緊急の課題である。本遺伝カウンセリングコースでは、遺伝学、遺伝医学、医療科学、医療倫理学、心理学、臨床心理学、カウンセリング技術などについて修士レベルの知識・技術を修得させ、さらに現場での遺伝カウンセリング実習を1年間行うことで、優れた遺伝カウンセラーを養成する。その後さらに研鑽を積むことにより遺伝カウンセラーのリーダーとなる人材の養成をめざす。この3年のコースを経た遺伝カウンセラーの養成人数は3年間で10名、5年間で30名を目標としている。その後、2年間の研究と実地体験を経て博士課程を修了する者は、5年後以降、毎年5名程度を予定している。

2. 内容

現在、わが国に遺伝カウンセラーを根付かせるために研究と実証に努めている人材を、新規に本コースの教員として採用し、本学人間文化研究科のライフサイエンス専攻（生命系）と発達社会科学専攻（心理系）の教員、そして協定を結んでいる東京女子医科大学の教員（医療系）の連携のもと、それぞれ講義・実習を担当し、遺伝カウンセラーに必要とされる遺伝学、遺伝医学、医療科学、医療倫理学、心理学、臨床心理学の知識およびカウンセリング技術などを修得させる。また、遺伝カウンセラーの教育のために必要なカリキュラム・教材の研究開発を行い、教育の高度化、国際化に努める。

人材養成の必要性

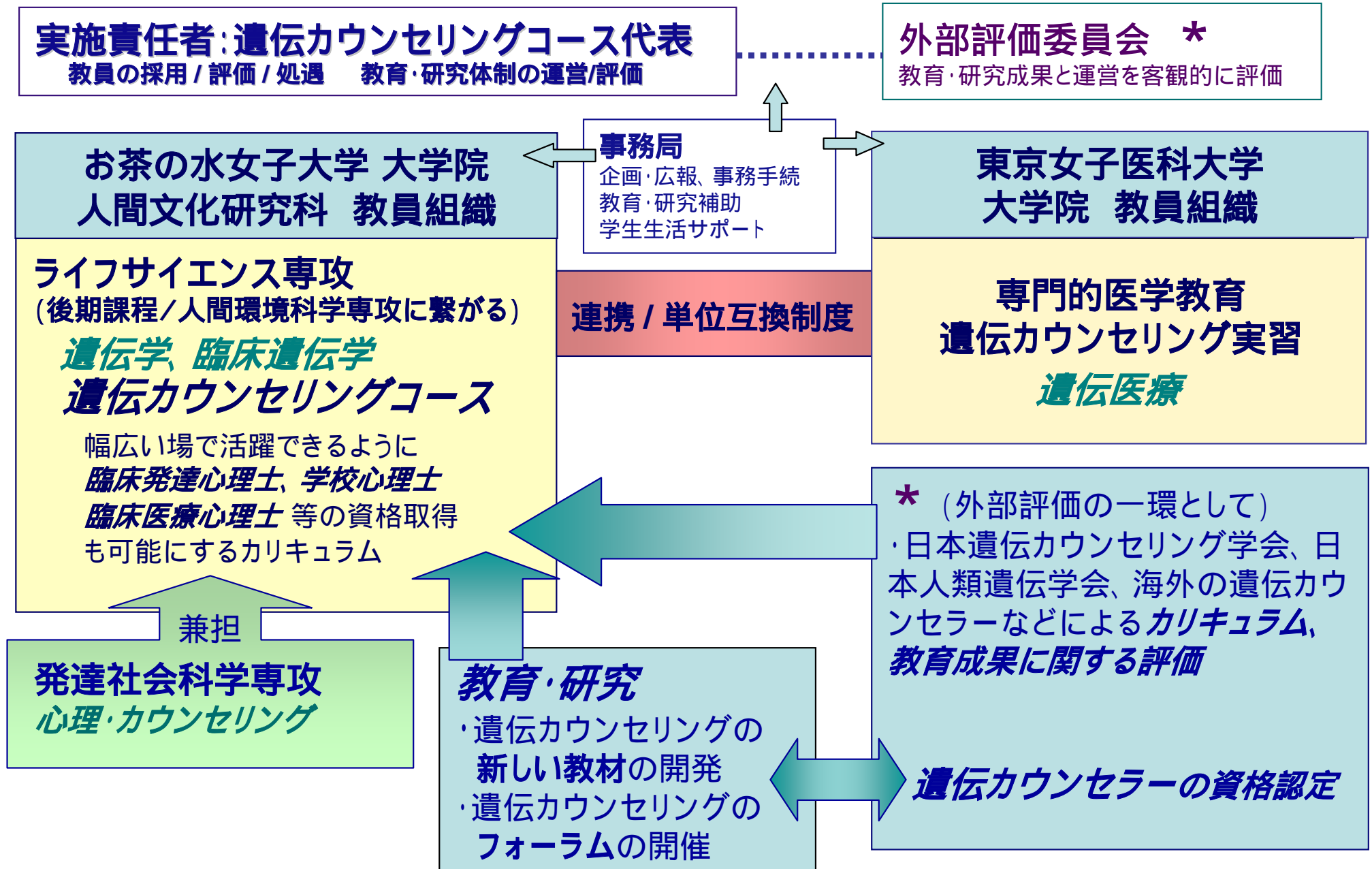
遺伝子診療における遺伝カウンセリングの役割は今後ますます増大することが予想される。欧米では遺伝カウンセラーという職種が確立しており、遺伝カウンセリングは臨床遺伝専門医と遺伝カウンセラーとの機能的な役割分担のもとに行われている。そして、将来の業務の拡大への対応が進められている。しかし、わが国では遺伝カウンセラーという職種がまだ認知すらされておらず、遺伝カウンセリングは多忙な医師が片手間に行なわざるを得ない状況である。

本コースの設置および運営により、優れた遺伝カウンセラーを世に送り出し、しかも、将来日本の遺伝カウンセリングの分野の指導者となりうる人材をいち早く養成することは、わが国におけるこの分野の遅れを取り戻すために極めて有用であり、遺伝子診療のさらなる発展にも貢献するであろう。遺伝カウンセリングを受けるクライアントには母親や子供が多く、女性カウンセラーの社会的意義は大きい。

計画進展・成果がもたらす利点

遺伝子診療が益々発展し、遺伝カウンセラーに対する社会的ニーズは今後高まっていくと予想される。また本コースで育成した遺伝カウンセラーの医療の現場での活躍により、遺伝カウンセラーの社会的認知度も高まり、遺伝子診療がさらに日常的に行われるようになることが期待される。そのような展開は、遺伝カウンセラーという新たな女性に適した職業の創出にもつながるであろう。さらには、本学博士後期課程を修了する人材を養成することにより、遺伝カウンセリングという新しい分野の教育・研究の発展に貢献できる。

「遺伝カウンセリングコース」の実施体制



さらに博士論文作成と実地訓練を経て「遺伝カウンセリング」領域の研究者・指導者に！

遺伝カウンセリングコースの実施内容

1年目

遺伝カウンセリングコース1期生

お茶大と女子医大で
講義・実習を履修(44単位)

2年目

遺伝カウンセリングコース2期生

お茶大と女子医大で
講義・実習を履修

遺伝カウンセラーの資格
認定制度(学会認定)

3年目

博士前期課程修了 修士号取得!

資格取得: 臨床発達心理士,
学校心理士, 臨床医療心理士

女子医大で遺伝カウンセリング実習
(10単位)

遺伝カウンセリングコース3期生

お茶大と女子医大で
講義・実習を履修

4年目

遺伝カウンセラー 資格取得!

現場でのカウンセリング

研究論文作成

女子医大で遺伝
カウンセリング実習

遺伝カウンセラー 資格取得!

5年目

博士後期課程修了
博士号取得!

女子医大で遺伝
カウンセリング実習

6年目

遺伝カウンセラー
の指導者

教育者、研究者

遺伝カウンセラー 資格取得!